



駒澤会だより

第26号

2016年12月17日
駒澤大学駒澤会発行



道元禅師の「食」から学ぶ「行」「学」の原点

学 長 廣 瀬 良 弘

駒澤会の皆様には、長年に亘り大勢の学生に対して奨学金の給付を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。また、貴会におかれましては、教育後援会との連携を深め、隆盛とされますよう祈念申し上げます。さて、今回は秋の研修会でお話しさせて頂いたことを申し述べたいと思います。

本学の建学の理念である「行学一如」（行と学が一体である）が「行」を相当に重んじたものでありますことは、幾度となく申し述べてまいりました。そして、それが道元禅師の禅を最も代表する言葉「修証一等」（修〈坐禅修行〉の中に証〈悟り〉が現れる）に由来するものであることも述べてきました。

道元禅師がとくに「行」を重んじたのは、「坐禅＝即悟り」という禅の立場を採りますので、日常の生活は「坐禅」を中心とした生活と言うことになります。それは、一体どのような生活をすれば良いのか、ということが問題となります。このことにつきまして、禅寺の料理長というべき典座（てんぞ）の心得を書いた『典座教訓』に「現在、我が国で仏法の名を聞くようになって久しいが、僧の食事を作法通りに作る言葉を書いた先人はいないし先徳もない」と述べています。当時、一番大事なはずの毎日の生活をどうすれば良いのかを示す人はいなかったということです。

『典座教訓』には、「米と砂を洗い分ける場合は、典座自ら、自分の手でやりなさい」、「米を浸すときは目を見開いて一粒も無駄にするな」、さらに、料理を作る場合は「喜心・老心・大心の三心で作れ、喜心は喜びの心で、老心は自分の貧富は考えず、我が子の成長を願い、自分の寒さを顧みずに子を暖め、暑さを顧みずに子に日陰を作る親のような心で、大心とは、偏りのない大きな心で食事を作れ」とされます。

食事に赴く作法を書いた『赴粥飯法』（ふしゆくはんぼう）という書物では、僧堂（兼食堂）には正面左側から入れ、その場合（左側の柱に足をぶつけないためであろう）左足から踏み入れるようにと指示し、重なっている食器（応量器）の広げ方、袱紗の結び目の解き方、布巾の畳み方、箸袋の開き方、そして、お粥の10の効能を書き、食事の配り方では、くしゃみや咳をする場合は必ず後ろを向かねばならない、ご飯の受け取り方では、食器に盛られたご飯の中央に穴を開けたり、おかずを覆い隠し、さらにおかずを求めてはならない、隣の人のお食器の中を覗いて、不満に思ってはならない、頭を掻いてフケを食器に落とすな、と細かく指示します。

また、『正法眼蔵』洗面の巻では、顔の洗い方、歯の磨き方が丁寧に書かれ、舌の粕の取り方まで記し、「楊枝を裂いて作った搔きヘラに血がついたら止めよ」とあるほどです。

道元禅師は日々の具体的な生き方、修行生活の方法を書き、「行」の重要さを示したのです。本学の建学の理念「行学一如」がいかに重みのある言葉であるのかが理解されます。

奨学金授与式について

総 額：400万円(一人20万円×20人)
目 的：学業奨励
対象学生：学部2年生以上

昭和57年に、「駒澤大学駒澤会奨学金給付規程」が制定され、駒澤会奨学金が誕生し、現在は20万円×20人、年間400万円を給付しております。給付者は平成28年度で発足以来1105人に達しました。

平成28年7月に駒澤会奨学金授与式が廣瀬学長、森屋会長、田中副会長が出席のもと行われました。

森屋会長より奨学金決定通知書を学生ひとりひとりに手渡されました。その後、学長より、駒澤会へのお礼が述べられ、学生達へ激励の言葉がありました。また、森屋会長より駒澤会の紹介があり、学生達への祝辞が述べられました。

授与された学生達も感謝の言葉を述べていました。

奨学金を受給された代表3人の決意と感謝の声を掲載します。駒澤会で応援を続けていくことの原点を再認識し、今後も協力しあいましょう。



受給生の言葉



文学部歴史学科
日本史学専攻
4年 池田 翔太

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。私は、今年度で3年間連続の採用となり、今年度も昨年度の勉学の取り組みを評価していただいたことを大変光栄に思います。駒澤会の皆様には、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、私は、将来日本史の高校教員になりたいと考えています。今日の教員には、より専門的な知識を有することが求められ、大学での学びが一層重要になっています。私の所属する中野ゼミでは、歴史史料に基づく実証的な歴史学を基礎に研究を行っており、より質の高い歴史を身に付けることができます。本学での学びは、一言に学びと云っても知識を詰め込むだけの学びではありません。話す力、聴く力、書く力などこれからより一層重視される能力も学びました。自ら創設したスイーツ研究会というサークルではコミュニケーション能力や責任感、牽引することや運営の難しさなど学問からは学べないことを学びました。このような本学での学びは、高校教員を目指すにあたって重要な学びであり、将来、これらを活かして教員としての役割を全うしたいと考えています。

また、大学は様々な事情を抱えた人が集う場所です。しかし、学費は決して安いものではありません。加えて、交通費や交際費、書籍代など多くの費用がかかります。奨学金を借りながら通っている学生が大勢いることも事実です。その学費を稼ぐためにアルバイトに多くの時間を割き、貴重な大学生活の時間を消費してしまっただけでは大学進学の大きな意義が失われてしまいます。そこで駒澤会奨学金が重要になってくるのではないかと考えます。努力を評価していただくことによって得た奨学金を必要経費に充てることができれば大学生活の時間を有意義に過ごすことができ、本分である勉強にもさらに余裕が持てます。駒澤会奨学金は大学生が大学生であるための重要な一翼を担っているのではないのでしょうか。最後になりますが、学びたい意欲がある人がより学びやすくなるように支援していただける駒澤会奨学金制度は、本当にありがたいものです。寄付者の皆様には感謝してもしきれません。卒業後、社会に出てからもこの感謝の気持ちを忘れず、駒澤大学、そして社会に恩返ししたいと考えています。

受給生の言葉



経営学部市場戦略学科
3年 安齋 奈々

この度は駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。日頃の学修の成果を認めていただけたことを、大変光栄に思います。

現在私はマーケティングの中でも、広告とデータ分析の分野を中心に学んでいます。なぜなら実務のノウハウとしては勿論、学問としても大変興味深いですし、この知識は実社会においても不可欠なものであると信じているからです。

私の行動についてのモットーは、「決して諦めずに全力で取り組むこと」です。一度始めたことは最後までやり通すことで、必ず努力は報われると信じています。

例えばゼミについては、マーケティングに関する研究論文を執筆したり、企業と連携して企画提案や意識調査等を行っています。活動時間が長く大変ですが、それに見合う貴重な経験ができ、非常に充実した大学生活になっていると実感しています。

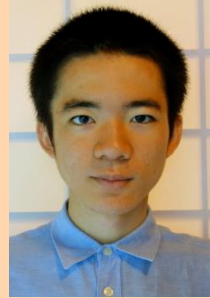
また学業以外には、KPS(Komazawa Promote Staff)に所属して、オープンキャンパスを中心に駒澤大学の魅力を伝えています。スタッフの一員として活動することが好きなこともあり、個人的にも楽しんで参加しています。

学生の本分である学業やそれに付随する活動に参加することを重要視しているため、アルバイトをする時間は取れないのが実情です。そこで本制度でいただいた奨学金をテキストの購入や必要経費に充てることで、本当にやりたい、駒大生のうちにしかできないことに注力できるようにしています。

今回の受給生としての採用は、様々な活動を通じて非常に多くの方々に支えられた結果であると思っています。特に、日頃お世話になっている駒澤大学の教職員の皆様、そして、いつもほぼ終電で帰ってくる私を文句ひとつ言わずに助けてくれる家族には、感謝してもしきれません。

自分の興味や個性を大切にしつつ、今後とも実のある学生生活を送りたいと思います。

受給生の言葉



仏教学部
2年 丹羽 道海

このたびは、駒澤会奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。昨年度の学業の成果に対し、高い評価をいただけたことを大変うれしく思います。

私は1年前駒澤大学に入学してから、誰よりも一生懸命、勉学に取り組むということ意識してきました。それは、推薦入試の時に仏教学部の受け入れ方針にあった「禅および仏教を学ぶ強い関心と意欲を有し、入学後の目標を明確にしていること」という項目から、周りよりも強い気持ちで学ぶ姿勢が求められると思い、誰にも負けなくらい勉学に対して真剣に取り組もうと思ったからです。また私は将来僧侶になることを目指しているため、駒澤大学で仏教についての十分な知識を修得し、将来に繋げたいという思いもあります。そのためには、やはり真剣な姿勢は欠かせないと思っています。

そのような思いを持ちながら取り組んできましたが、思いどおりの結果が出ないことがあったり、分からないことがたくさん出てきたりすることもあり、自分がしっかりと勉学に取り組んでいるのか不安になるときもありました。

そんな時に、駒澤会奨学金という制度があることを知り、学業の成果を評価していただけるよい機会だと思って出願しました。その結果こうして採用が決まり、「自分の取り組みは間違っていなかった」と安心するとともに、これからも継続して取り組んでいけばよいのだという確信を得ることができました。また、奨学金を頂いたことで授業や図書館での勉強だけでなく、実際に寺院などの見学に訪れて、より理解を深めることもできました。

今回、駒澤会奨学生に選んでいただいたことを大変光栄に思います。駒澤会奨学生として、よいプレッシャーを感じながら、これからも日々努力していきます。最後に、こうした制度を整え、私たち学生を支えてくださる駒澤会の皆さまに心より御礼申し上げます。

教育後援会との懇親会報告



広報部副部長 齋藤 和子

平成28年8月25日、新橋「新橋亭 新館」において、毎年恒例の教育後援会と駒澤会の懇親会が行われました。

はじめに、森屋会長より、駒澤会が現在に至るまでのお話しと共に、「駒澤会は卒業後も駒澤の学生達を応援し続ける会である。」との愛情溢れるご挨拶がありました。それを受けて、吉田教育後援会会長からは、教育後援会卒業後の受け皿となる安定した会であり、今後も繋がりを深めて行きたいとお言葉を頂きました。また齋藤教育後援会副会長からは、昨年度新設された教育後援会長野県支部にまるで合わせたかのように、今年度から「黒姫妙高山麓大学駅伝大会」が開催され、週末にはその応援に行くとの報告がなされた後、乾杯となりました。

其々の席では、教育後援会の方々と和気藹藹と話がはずんでいる様子でした。私自身も久しぶりにお目に掛かった教育後援会の後輩と話に花が咲き時間があっという間に感じられました。

三崎副会長の閉会の挨拶では、今回ご参加下さった方全員が入会をお約束されたとの嬉しい報告があり、来年に向けて楽しみな、大変意義のある会となりました。



駒澤会の卵たち「教育後援会」



教育後援会会長 吉田 稔

駒澤会みなさま、こんにちは。

駒澤大学教育後援会会長の吉田稔でございます。

教育後援会の、元メンバーであるみなさまは、私たちの大先輩ですが現役学生の保護者である教育後援会のメンバーには、駒澤会がまだまだ知れ渡っておりません。

子供たちが、卒業した後もエンドレスで同窓組織があるということは大変素晴らしく、またこころ強く感じております。

しかし、日常の運営のことが中心で、まだ卒業後のことはイメージしづらいのが現状です。

そうした中で、昨今お互いの立場の尊重機運が高まり、徐々に交流も増え始め、例年恒例の暑気払いにおいて後援会の参加メンバーの増枠について、ご相談を受けました。私たちの、近い将来というイメージもあり4年生委員と役員会参加メンバー全員に参加を募り9名が合流させていただき、8月25日(木)新橋の老舗中華料理「新橋亭」にて開催されました。

初参加のメンバーも多いなか、大変盛り上がり4年生は全員が駒澤会入会を決意し、卵の殻を破り、来春駒澤会に飛び出す予定になりました。

駒澤会の方々は、とても気さくで、パワー全開の方が多く違和感も全くありません。

子供たちが卒業後も後援会のメンバーが手に手をつなぎ、現役学生の支援や親同士の交流をとおして、駒澤大学を応援し続けている姿は駒澤ならではの伝統だと思います。

大学では、駒澤会、同窓会、教育後援会を後援組織の柱であると位置づけております。

それぞれの組織の役割と特徴を生かしながら、さらに連携を深めることが駒澤大学の礎をより強固にして行くものと思います。



教育後援会は、今年57年目を迎えます。

130周年記念棟の建設にともない、年度総会でご承認いただいた大学への寄付を実施する節目の年度となります。過年度の会員より、お預かりしてきた会費を新校舎の学生食堂を中心にした費用に充当する予定です。

すべての学生が、在学中に新施設等を利用できるわけではありませんが、まさに、現駒澤会の方々築き上げていただいた賜物となります。

駒澤大学の関連組織の継承が駒澤大学を大きくしていくことに期待したいと思います。

卒業後皆様の胸元に自信をもって、卵の殻が破けるように今後も、連携を深めつつ温かく見守っていただければと思います。

皆様の、ご支援ご協力お願い申し上げます。

駒澤会「秋の研修会」に参加して



総務部 山田 直重

平成28年10月1日土曜日から翌日にわたり駒澤会「秋の研修会」に参加しました。本年の宿泊および研修会の会場は埼玉県秩父市荒川上田野にある御宿「竹取物語」でした。大学からは廣瀬良弘学長先生が研修会の講師として来られ、教育振興部の和田月史部長も参加されました。

10月1日土曜日は西武池袋駅に集合された方や西武秩父駅で合流された方、また御宿へ直接向かわれた方などが、午後4時からの研修会に集まりました。

廣瀬学長先生の講義は「道元禅師と食事」でした。まず「日本食の歴史」を辿ると、水田の誕生から米を中心とした食文化が現われ食物の保存も行われるようになりました。その後「大饗料理」の時代を経て「精進料理」が伝えられました。この「精進料理」は、道元禅師が貞応2年（1223）



に中国に渡り安貞元年（1227）に帰国した際に伝えられたとされる「精進料理」が始まりとされています。

そのうち「本膳料理」や「懐石料理」などが出現し今に至ります。道元禅師は食事を作ることも食べることも仏道実践の行為であるとされ「典座教訓（てんぞきょうくん）」や修行道場の食事様式を記述した「赴粥飯法（ふしゅくはんぼう）」などの作法書を遺されました。この作法書の内容を掻い摘んで説明されました。作法

が厳格であると、初めは作法を厳守することが大変ですが、一度身につくとこの作法こそが「無駄を省いた最も美しい振舞いである。」と気づくそうですとお話をされました。さらに「庭訓往来（ていきんおうらい）」を参照し当時の食事の献立にも触れられて講義が終了しました。

御宿の夕食では地元秩父で収穫された野菜の数々を食材にした手作り感溢れる創作会席料理を楽しみました。

翌日は朝からお帰りの方も居られましたが、希望者で秩父散策をしました。午前中に「長瀨ライン下り」の船に乗りました。荒川の川面を流れる秋の風はとても心地よいものでした。昼食後は西武鉄道の高麗駅まで移動して下車し巾着田を散策しました。そのの曼殊沙華公園で美しく咲き乱れるヒガンバナを観てから帰路につきました。秩父路を満喫した楽しい二日間でした。

この「秋の研修会」に際し資料をご準備されご講義頂きました廣瀬学長先生をはじめ関係者の皆様およびこの企画を立て下見等の準備をして下さった厚生部の皆様ありがとうございました。



～開校130周年記念棟「種月館」建設中～

駒澤大学開校130周年記念棟は、平成30年4月の利用開始をめざし、順調に工事が進んでいます。この建物には、各種教場をはじめとしてさまざまな施設が入ります。

建物全体の通称名は、禅語の「耕雲種月（こううんしゅげつ）」から採り「種月館」と決めました。「耕雲館」（禅文化歴史博物館）に隣り合う新棟に「種月」の名を冠することで、皆さまにあらためて本学の大学文化としての禅文化を受け止め、大いに学修・研究・業務に励む場としていただきたい、との意味を込めています。



イメージ図

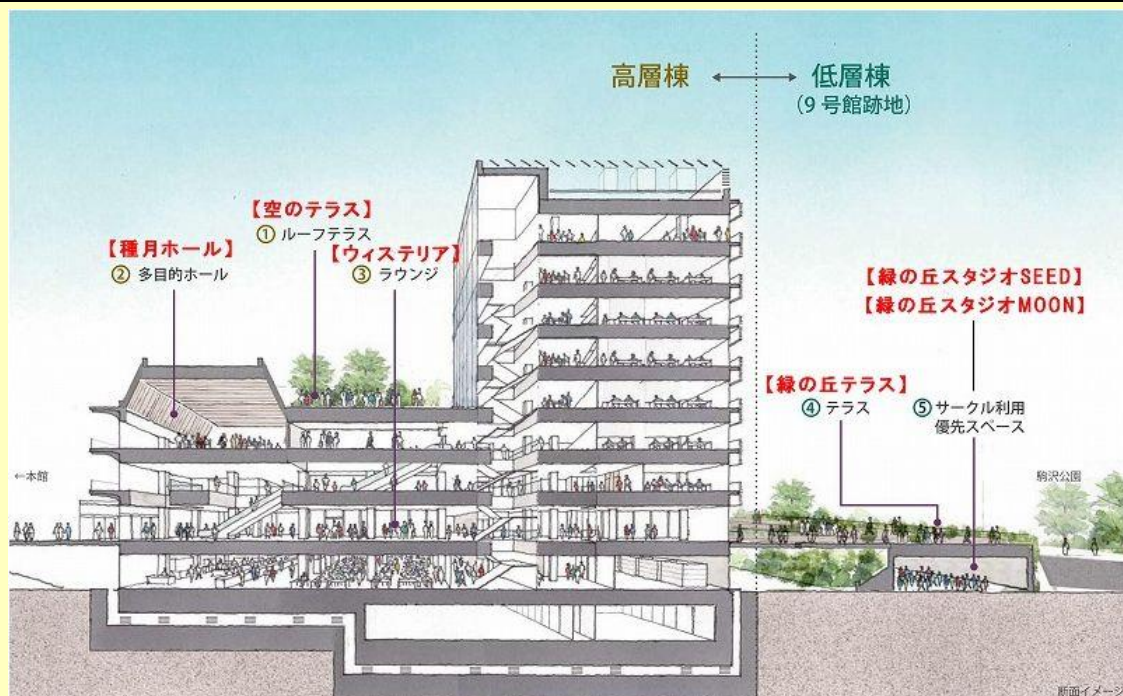


工事現場写真（平成28年12月撮影）

～「種月館」5施設の名称が決定～

平成28年5月10日～6月10日の期間、学生・教職員に公募を行った5施設の名称が決定しました。

施設名	決定名称
1 ルーフテラス（高層棟5階屋上）	空のテラス ※「空」は「そら」と読む。
2 多目的ホール（高層棟4階）	種月ホール
3 ラウンジ（高層棟2階）	ウイステリア
4 テラス（低層棟屋上）	緑の丘テラス
5 サークル優先スペース（低層棟1階）	緑の丘スタジオ MOON、緑の丘スタジオ SEED



会員紹介 三崎 章子さん



今回の会員紹介は現在、駒澤会副会長としてご活躍されている三崎章子さんを紹介します。三崎さんは2001年に駒澤会へ入会、その後総務部に所属し副部長・部長を経て、2012年から副会長を務めています。

一駒澤会との出会いは。

私が教育後援会委員の時に、教育後援会総会で駒澤会の先輩方がパンフレットを配りに来ていて知りました。当時は教育後援会総会に駒澤会会員の方が来て、駒澤会の紹介・勧誘をしていました。教育後援会委員の方は駒澤会に入会するのが当然のようになっており、私も自然な流れで入会しました。



一駒澤会に入会して良かったことは。

いろいろな方と交流することができ、世代の異なる方々とも接点ができたことです。そのお陰で人間関係が広がり、自分にとって大きなプラスとなっています。駒澤会で得た出会いは自分にとって財産です。

一家族構成は。

家族は主人と子供が二人（長男、次男）です。男二人の子供を育てるのはとても大変でした。

次男が駒澤大学卒業生で駒澤会との御縁ができました。在学時は元駒澤会名誉会長の大谷哲夫先生のゼミに所属していました。現在は就職し社会人として日々頑張っています。

長男は都内の大学を卒業後、結婚が御縁となった島根県のお寺で住職をしています。

一今熱中していることは。

ママさんバレーチームに所属しています。3年前には全国大会にも出場しました。全国大会に出場するのはとても狭き門で、東京都予選で50チーム以上ある中から2チームしか出られません。出場した全国大会では結果が出なかったですが、現在も全国大会を目指しメンバー全員で頑張っています。私が所属しているチームには20代から80代の方までいて活気があります。

一とても年齢層が幅広く、ケガも心配になりますね。

皆さん年齢関係なく若々しくて、ケガを恐れず積極的にプレーしています。レシーブもスパイクもボールに向かっていきますし、回転レシーブなんかもしますよ。自分も若い方には負けない気持ちを持って臨んでいます。

－子供の頃どんなお子さんでしたか。

おとなしかったです。兄と弟がいて私は女一人であったため、口数が少なかったのかもしれませんが。私の子供の頃を知っている方は、大人になって性格が変わったとも言われました。

息子二人を育てるうちに母親として会話・口数が多くなり、性格が変わっていったのだと思います。

－子供の頃の夢は。

特別にはなかったです。あるがまま、自然体でいられば良いと思っていました。

－現在は保育園で補助もしているみたいですね。

はい、保育園で子供と接するのは私にとって癒しです。いつも可愛くて、保育園に行くのが楽しみです。

しかし、保育に携わっているとご父母の方からお悩みを伺うこともあります。ご父母の中には子供を持ち様々な理由で悩まれている方がいらっしゃいます。私が保育に携わって思うことは、可能であればご父母自身だけでかかえこまず周りの方に相談できることはしていただきたいと思っています。内容によって身近な人に相談し辛いことも多々あると思いますので、相談センター等の利用も検討してほしいです。

難しい問題ですが、協力したいと思っている人は周りに沢山いるはずですし、また、どなたかに悩みを相談するだけでもきっと支えになるはずですから。

－今後の駒澤会への思いは。

益々発展していただきたいです。

インタビュー所感

三崎さんにはいつも副会長・女性人のリーダーの一人として駒澤会を引っ張っていただいています。現在は副会長を務められ3期目となり、任期もあと数年で一区切りとなられるかと存じますが、その後も引き続き駒澤会の運営にご尽力いただければ幸いです。

いつもハツラツとしている三崎さん。その元気のよさでいつも駒澤会を盛り上げていただき感謝しています。



入会者芳名

駒澤会にご入会いただきまして感謝申し上げます。

ここにご入会いただいた皆様のご芳名を掲載いたします。

* 今回の発表は平成27年11月1日から平成28年11月末日までにご入会いただきました方を対象としております。

* 対象期間にご入会いただいた方のうち、本紙への掲載について、同意をいただいた方のみ掲載（不同意の方と連絡が取れなかった方は匿名）とさせていただきます。

蝦名 義憲 様	小坂 誠治 様	坂本 光雄 様
澤口 博人 様	進藤 弘 様	百名 一男 様
福山 隆夫 様	藤巻 志伸 様	藤原 育夫 様
星見 泰寛 様	三橋 正人 様	三宅 千草 様
吉見 力 様		匿名 25人

平成28年度サークル活動状況報告

駒澤大学では計170余のサークルが活動しています。主なサークルの活動状況について報告します。

～体育会～

◎陸上競技部

第28回出雲全日本大学選抜駅伝競走 5位、第48回全日本大学駅伝対校選手権大会 4位

◎硬式野球部

東都大学硬式野球リーグ戦 春季…3位（2部リーグ）、秋季…4位（2部リーグ）

◎サッカー部

関東大学サッカーリーグ戦 9位（1部リーグ）

◎卓球部

関東学生卓球リーグ戦 春季…2位（2部リーグ）、秋季…1位（2部リーグ）1部昇格!

◎ボクシング部

関東大学ボクシングリーグ戦 5位（1部リーグ）

◎空手道部

内閣総理大臣杯 第59回全国空手道選手権大会 男子：団体形…優勝、団体組手…優勝

女子：団体形…優勝、団体組手…准優勝

～文化部～

◎吹奏楽部

平成28年東京都吹奏楽コンクール 大学の部 銅賞

※その他のサークル、個人の成績等については各サークル、教育後援会ホームページ等をご確認ください。

駒澤大学高校 サッカー部

全国高校サッカー選手権大会 東京都大会 Bブロック 優勝!

12月30日(金)に開幕する全国高校サッカー選手権大会に出場します。応援よろしく申し上げます。

各部入部のお誘い

会員の皆様へ

会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。

会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、近郊の方又は遠方でも2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。

皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：岡田までご一報ください。

TEL：(03) 3418-9189 FAX：(03) 3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所などを考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして 会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～11月までの利金	備考
みずほ銀行	18,446円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	10,487円	定期・普通預金利息
合計	28,933円	

基金管理委員長

編集後記

この8月、日本の夏の蒸し暑さに音をあげて、タイのチェンマイに逃れてゆきました。夏に南国に避暑に行くなど正気かと思われるでしょうが、チェンマイは日本よりはるかに快適で気温は30度前後、湿度も低いのです。市街はバカンスで遊びに来ている欧米人で溢れていました。

タイは【微笑みの国】と言われます。実際、街を歩いていて擦れ違う人と目が合ったりすると何ともいえぬ優しい眼差しと微笑みが返ってくるのです。初めての道を一人歩きしても一度も不安を感じることはありませんでした。それはタイが仏教を篤く信仰する国で、国民の多くが仏の慈悲を学んで優しい心を育てているからでしょう。数多の宗教の中でも仏教は突出して優しさを涵養しているのではないのでしょうか。我が子を通して駒澤大学に縁ができ、子供が卒業してからも駒澤会の活動を通して折に触れ道元禅師の教えに接することが出来る・・・あらためて嬉しさを覚え、縁というものの不思議さを思うのです。

(広報部副部長 村田 保廣)

事務局からのお知らせ

大学行事予定

12月25日～1月5日

冬期休業(全学休業)

2月4日～8日 2月一般入学試験

3月7日 3月一般入学試験

3月23・24日 卒業式(会長出席)

駒澤会行事予定

1月 3日 箱根駅伝応援企画

1月21日 役員会

2月12日 駒澤会新年賀詞交歓会

3月11日 役員会

駒澤会だより 第26号

発行日:平成28年12月17日

発行者:駒澤大学駒澤会 広報部

154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1

TEL:(03)3418-9189

FAX:(03)3418-9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HP内>

<https://www.komazawa-u.ac.jp>

→ 在学生父母の方をクリック

→ 駒澤会をクリック

駒澤大学
駒澤会

